

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境					0.40		-	2.9
1 音環境				3.0	0.15		-	3.0
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40		-	
1.2 遮音		—		3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能		—		3.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能		—			-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—			-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—			-		-	
1.3 吸音		—		3.0	0.20		-	
2 温熱環境				2.5	0.35		-	2.5
2.1 室温制御		—		2.8	0.50		-	
1 室温		—		3.0	0.50		-	
2 外皮性能		—		2.0	0.17		-	
3 ゾーン別制御性		—		3.0	0.33		-	
2.2 湿度制御		—		1.0	0.20		-	
2.3 空調方式		—		3.0	0.30		-	
3 光・視環境				3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用		—		3.0	0.50		-	
1 昼光率		—			-		-	
2 方位別開口		—			-		-	
3 昼光利用設備		—		3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策		—			-		-	
1 昼光制御		—			-		-	
3.3 照度		—			-		-	
3.4 照明制御		—		3.0	0.50		-	
4 空気質環境				3.3	0.25		-	3.3
4.1 発生源対策		—		4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00		-	
4.2 換気		—		3.0	0.30		-	
1 換気量		—		3.0	0.50		-	
2 自然換気性能		—			-		-	
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.50		-	
4.3 運用管理		—		2.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		—		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		—		1.0	0.50		-	
Q2 サービス性能				—	0.30		-	3.0
1 機能性				2.7	0.40		-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性		—			-		-	
2 高度情報通信設備対応		—			-		-	
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性		—		2.6	0.30		-	
1 広さ感・景観		売場の天井高3.6m以上。		5.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		—		2.0	0.33		-	
3 内装計画		—		1.0	0.33		-	
1.3 維持管理		—		2.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		—		2.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		—		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		—		2.8	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		—		2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		—		2.0	0.20		-	
3 電気設備		—		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20		-	

3	対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高:3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率] <0.1。	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラック内配線、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
	1 生物環境の保全と創出		-	2.0	0.30	-	-	2.0
	2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.8
	LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.2
	1 建物外皮の熱負荷抑制		-	1.0	0.20	-	-	1.0
	2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			2.3	0.50	-	-	2.3
	集合住宅以外の評価			2.3	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
	1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓に加えて節水型便器を用いている。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
	2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
	2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材等を使用している。	5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
	1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率80%。	3.7	0.33	-	-	3.7
	2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
3	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	1.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	2.0		－	○	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	○	○	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	－	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		－	－	2.0	－	1.0	－	－	－	1.0	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		－	－	－	－	－	1.0	－						
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		－	1.0	1.0	3.0	－	－	－	－	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	－		－	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	－	2.0	3.0	2.0	－	－	－	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	－	1.0	－	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		－	1.0	－	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	－		－	－											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
星光率	-				
自然換気有効開口面積率	-				

3.1.1 星光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	－	/人	病床	－	/床	シングル	－	ツイン	－
コンセント容量	－	VA/m ²							
天井高	3.98	m							
リフレッシュスペース	－	レストスペース	－						
想定耐用年数	－	年							
想定必要間隔	－	年							
想定必要間隔	－	年							
想定必要間隔	－	年							
階高	4.6	m							
壁長さ比率	5.0%								
床荷重	－	N/m ²							

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	49%	建物緑化指数	0%				
空地率	57%	水平投影面積率	15%	地表面対策面積率	32%	舗装面積率	37%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	1.18	断熱等性能等級	対象外 相当					
自然エネルギー直接利用量	－	MJ/年㎡	採光を満たす教室数		－	採光を満たす住戸数	－	
			通風を満たす教室数		－	通風を満たす住戸数	－	
			太陽光		－	太陽熱等	蓄電池	－
BEI/BEI _m	再エネ有	0.77	無	0.77	オフサイト再エネ有	－	－	
一次エネルギー削減率	再エネ有		無					

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	－				
特定調達品目	断熱材	エコマーク商品	－	自治体指定の特定品目等	－
使用比率	－				
オゾン層破壊係数(ODP)	－	地球温暖化係数(GWP)	－		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1		
オゾン層破壊係数(ODP)	－	地球温暖化係数(GWP)	－		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	42%	隣棟間隔指標Rw 9.02							
地表面対策面積率	44.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%				
見付面積Sb	1,534㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	197.88 m	基準高さHb	18.06 m				
緑地	3,959㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡